

行政視察報告

(会派 わきみず)

<視察目的>

○安来市でも廃棄物問題が挙げられている、さいたま市の施設対応の調査。上越市のスマート農業の取り組み、また、我孫子市での提案型公共サービスの研究。

<視察概要一覧>

視察月日	視察先	視察施設	視察内容
8月7日	埼玉県さいたま市	さいたま市桜環境センター	施設概要（環境啓発、余熱体験施設）廃棄物処理計画、災害時の処理の対応
8月8日	新潟県上越市	板倉区総合事務所	圃場の超大型化に併せた次世代型大規模水田経営における用途別多品種米スマート農業
8月9日	千葉県我孫子市	我孫子市役所	提案型公共サービス民営化制度について 伺う

<視察概要報告>

- 8月7日対応部署：環境局資源循環推進部 環境施設管理課
(株)エコパークさいたま

●<考 察>

桜環境センターは熱回収施設、リサイクルセンター、管理棟（環境啓発施設、余熱体験施設）で構成され、市内から排出されるごみを適正に処理するだけでなく、循環型社会構成のため様々な取り組みを行っていた。

環境保全対策と周辺環境との調和ではビオトープ、多目的広場、太陽光発電・ごみの適正処理と施設の安定稼働では、熱エネルギー発電や余熱利用の温浴設備・循環型社会の構築では、排ガス自主基準値、資源の回収の3本柱にすえて取り組みがなされていた。

管理棟では1～2階は環境啓発施設（無料）で人々の交流の場。3～4階余熱体験施設（有料）で温浴、ウオーキングプール、レストランなど高齢者の憩いの場で年間50万人の利用者がある施設。今後安来市での計画があれば参考にしたい。

- 8月8日対応部署：上越市農林水産部農政課
環境総合研究所

●<考 察>

上越市は人口19万人余、上越市農業の強みは全国4位の作付面積と反当519kg、57,500tの収穫量は全国8位。また、認定農業者・法人化の増加で集積率の向上が上げられる。また、ほ場の大区画化による作業効率の向上が図られ、水田面積の78%が整備されていた。主食用米からの転換も図られて「需要に応じたコメ生産」に移行。

一方では、水稲経営体の減少、水稲の単収の低さ生産コストの高さが弱みとのこと。

問題点の解消のためスマート農業技術の実証実験プロジェクトに取り組まれた。

現在の1ha区画から新たに整備される4ha・2haの超大区画ほ場で収量・品質を確保し生産コストの削減を目指す方向。トラクター・コンバイン・移植機の地上実証、農薬・肥料散布の空中実証、多機能自動給水栓・水管理システムの利水実証で実施。

尚、1ha区画のほ場は50m×200mで整備され畝の高さは1mで草刈りのコスト削減、誘導路の設置で機械の反転が出来、2回の周回作業の能率向上が図られていた。安来市でも中山間地の傾斜地の整備に活用したい。

●8月9日対応部署：我孫子市総務部総務課

●<考 察>

少子高齢化社会や環境問題など公共の果たす役割は大きい。公共サービスを担う仕組みをつくり、多様な民間の主体を育てるのが目的で、それによりスリムで効率的な市役所の実現を図る。提案型公共サービス民営化制度は、市のすべての事業を公表し、民間から委託・民営化の提案を募る制度。いただいた提案は常任の専門家3名と事業ごとに任命の2名で審査し、市民がプラスになると判断すれば、民間への委託・民営化を進める。H19年度から平成30年度までに採用実施提案は40件、削減効果は約1億円。

広報の編集・発行业務では、2,120万円から770万円と大幅な削減した事業もあり、安来市でも民間の発想で豊かなサービスを取り入れながら、公共サービスの充実を目指していきたい。